

第 52 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理—

今回の研修会は、湿地環境の順応的管理というテーマで湿生生態園のヨシ刈り、後半は野鳥の原っぱと呼ばれている草地の順応的管理のための視察を行いました。



今回はお盆の時期にもかかわらず、多くの受講生が参加してくれました。講師から公園の管理方針と作業内容の説明があり、気持ちの良い晴天の中、研修はスタートしました。



午前中は、湿生生態園の繁茂しすぎたヨシの刈り取り作業をしました。水際を明るくすることで、多様な植物が生育できる環境を創出していきます。



こちらは、1ヶ月前にもヨシの刈り取りをした水路
です。水路際には、一般的にはよく生長し繁茂
するミゾソバ、ドクダミなどヨシ以外の植物も見受け
られましたが、光不足からか草丈は低いようでした。



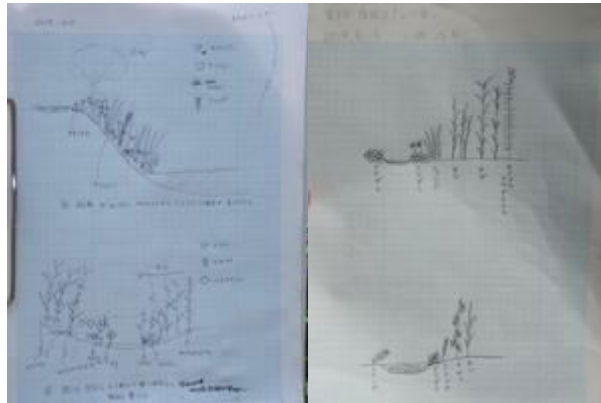
昼食後は、恒例の「最近気になった環境に
関するニュース」の発表です。生物多様性や
温暖化についてなどは、やはり皆さん
気になっているようですね。



午後は、植生管理をしている湿生生態園の湿地環境を理解するため、簡単な植生
調査を行いました。それをもとに、各自で水辺のエコトーンを図にしてみました。



池と水路の2ヶ所で、生育している植物の種や生長状況、生育場所を確認します。



完成した図がこちらです。

この図を見れば、その水辺の植物相や優先種、そして現在と管理後の生育状況の変化が把握でき、より順応的な管理がしやすくなります。



その後は、公園の運営会議で草刈りの時期を検討中の、ススキ・オギの草原へ移動しました。右の写真の手前は刈り取って数週間、奥は半年程前にそれぞれ刈り取ったススキ・オギ原です。

しかし、既に手前側でも、ススキやオギは20～30センチ程まで生長していました。



左の写真の、刈り払ってから1年経ったオギは、3m程の高さにまで生長しています。こちらでも、湿生生態園と同じように刈り取りの時期による植生の違いを観察できました。次回はこの草原の植生調査を行うので、より詳しい植生の違いを把握できるでしょう。



今回も研修中、たくさんの生きものに出会いました。写真左から水を飲むクロアゲハとキチョウ、たくさん見かけたアブラゼミ(写真は抜け殻)、カントリーヘッジにいたカブトムシです。

これで今回の研修は終了です。次回は、湿地環境の植生管理作業と、草地の調査を行います。いつも参加されている方はもちろん、まだ参加されたことのない方や、久しく参加していない方も是非ご参加ください。お待ちしております！